

学校概要

創立 30 周年	学校長 宮崎 美代子	副校長 和内 昭子	学期 2 学期制	児童・生徒数 802 人
学級数 一般級: 25 個別支援級: 3			主な関係校: 茅ヶ崎中学校	

学校教育目標

「茅ヶ崎のまちに学び自分らしさを創る子」を育てます。  
 ○自ら問題を発見し、解決する過程を深める子を育てます。(知)「やってみよう」  
 ○地域の人や自然とのふれ合いを大切に、より豊かな心を培う人間関係を育てます。(徳)「ふれあおう」  
 ○たくましく健康な体をつくり、進んで運動する態度を育てます。(体)「きたえよう」  
 ○地域と社会の変化に柔軟に対応し、自分から豊かに表現できる子を育てます。(公・開)「あらわそう」

学校の特徴

本校は港北ニュータウンの中央部に位置し、近くに茅ヶ崎公園やせせらぎ公園などの水辺が多く、緑豊かな自然に恵まれた閑静な住宅地にある。地域、保護者の方は、学校を大切に協力しを惜しまない。町内会長を中心に特色ある学校づくりのために理解と支援をしてくださる。一方、区外・市外からの転入児童が多い。児童は明るく素直である。横浜市学力・学習状況調査は全体的に横浜市の平均を上回っている。また、地域のスポーツも盛んでサッカー、野球、剣道、一輪車などに参加している児童が多い。習い事や塾に通っている児童が多い。

学校経営中期取組目標

○学校教育目標を実現するために、活力と魅力あふれる学校づくりに努めます。  
 ・規範意識と自己統制力を身につけるとともに、「自尊感情」「自己有用感」を感じることができる子どもを育成します。  
 ・教師力・授業力の育成と向上を図ります。  
 ・地域の人々・自然・施設に関わる「体験学習」を通して地域協働教育の充実を図ります。  
 ・校舎内外の美化と安全確保に努めます。

小中一貫教育の取組

茅ヶ崎中学校	ブロック	茅ヶ崎中学校	茅ヶ崎東小学校	茅ヶ崎台小学校	茅ヶ崎小学校
9年間で育てる子ども像	『「ち」いきと「が」っこうが「さ」さえあい「き」ずいていく』ブロックを合い言葉に、小中学校の教職員が連携・協働して子どもの成長の様子や情報をきめ細かく共有し授業改善を図りながら、爽やかで思いやりがあり向上心のある子どもに育てていく				
自校の具体的取組	・中学校と子どもの成長の様子や課題などの情報を共有し授業改善を図るとともに、児童理解力の向上や問題行動の未然防止に努める。 ・小中のスムーズな接続に向け、授業参観など中学校行事への参観や中学のクラブや部活動を通じた交流などを取り入れる。				

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	学習のねらいを明確にし、学習の質を高め、UDを意識し「分かる楽しい授業」の実現に努める。基礎・基本の定着を図るとともに学習の道筋を大切にします。	①交換授業や少人数制、個別指導等児童の実態に即した指導方法を取り入れる。②「分かった。できた。」と思える授業の実現を図るために、板書、ワークシート、声掛け等を工夫する。安心して授業に取り組めるように、全員で共通理解する。③研究テーマの実現に向け、外部講師を招き、ねらいや指導方法や内容を検討し、主体的に問題解決しようとする子
豊かな心	道徳の時間はもとより、あらゆる教育活動を通して、自他を大切にすることや態度を育てるとともに、自他の違いを認め合える子どもを育てる。	①子どもの実態をもとに、「かがやけみらい」「私たちの道徳」などの教材を活用し、全学級の道徳授業公開を年間1回以上実施する。②縦割り活動等による異学年交流や幼保小交流を通して、相手を思いやる心や自分への気付きや自信を構築する。③人権教育に視点を置いた人権目標を各学級毎に設定してその具現化を図る。
健やかな体	基本的な生活習慣の中で「良い姿勢」に重点をかけた全校で取り組む。一校一実践運動等を通し、たくましく健康な体づくりを目指す。食育の充実を図る。	縄跳び等を用いた一校一実践運動の確実な定着を図り、教職員の共通理解のもと実践し、児童が運動に親しむ機会や場所を確保し、健康な体づくりと体力の向上を目指す。
児童指導	挨拶等の礼儀や規範意識や自己統制力を身に付けるよう、学年に応じた指導を行う。いじめについては早期発見・対応に努め、対応方針を確立する。	①職員打ち合わせ内で特別な配慮を要する児童の状況と指導方法を共通理解する。②専門家による児童の実態に応じた非行防止教室を実施する。③夏休み前、冬休み前の年2回、児童実態調査を行い分析の結果を学年間と児童支援専任間で共通理解する。指導が必要な場合は個人面談を活用する。
特別支援教育	①実態把握のために、特支Coや学年を中心に丁寧に児童理解する。②面談時等で保護者と連携を取り、支援の方策を考える。③療育センター等他機関と連携する。	①実態を把握するために、特別支援教育コーディネーターや学年職員を中心に丁寧に児童を理解していく。②面談などの機会を大切に、保護者と連携を取りながら、支援の方策を考えていく。③必要に応じて、北部地域療育センターなど外部機関との連携を行いながら、児童に応じた支援を行っていく。
地域理解	地域との連携を深め、本校の恵まれた教育資源(自然的・社会的・人的)を活かし、直接体験を教育課程に位置づけ地域協働教育の充実を図る。	①生活科、社会科、総合的な学習の時間を核として、茅ヶ崎公園や自然生態園などの地域を大切にしている方々の思いに触れる学習を取り入れたり、地域コーディネーターと連携し、「茅ヶ崎のまちに学ぶ」の具現化を図ったりする。 ②学校ホームページ更新の校内研修を行い、学校情報発信の充実を充実を図る。
安全管理	安全で安心できる学校生活となるよう、校内研修を実施し、危機管理対応力を向上させる。組織的・計画的に校舎内外の美化と安全確認を実施していく。	①火災・地震の避難訓練に加え、不審者対応訓練や集団下校訓練等の校内訓練・研修を計画的に実施する。②「整理・整頓しよう」「清掃しよう」という勤労感が育つよう、全校での取り組みを考え、実践する。③地震などの災害に備え、教職員の協働により校舎内外の整理・整頓・清潔を心掛け、月1回の安全点検を含め、日頃から学校環境を整備する。
いじめへの対応	子どもの健全育成を図り、いじめのない学校の実現を目指す。いじめの未然防止、早期発見、早期対応、対処、措置を行う。	①友人関係、集団づくり、社会性の育成などの点を改善していく。②子どもたち一人ひとりが自己有用感をもてるように、授業や行事の中で活躍できる場面を設定していく。③児童の気になる変化や行為を職員の中で共有し、複数の職員で対応する。④初期対応に関する研修を行い、迅速かつ丁寧な対応ができるように努める。
人材育成・組織運営	「学年担任」としての意識を高める。会議の重要性、効率性を追求する。メンターチームが主体的に活動し、学習指導や児童指導の実践力向上を図る。	①交換授業・教科担任制などの学年の実態に応じて取り組み方法を工夫する。②メンターチーム内で話し合い、活動内容を決め、意欲的に取り組む。また、それを受けて、メンターチーム以外の教員も共に学ぶ機会をもつ。③会議の目的を明確にし、タイムマネジメント意識をもつ。④事務作業を補助する職員室業務アシスタントの配置により、教職員の負担軽減と業務改善を図る。